



「実りの秋 福島市」

## いつまでも安心して住み続けられる地域を

- ・まち研交流会！「岡田知弘先生と一緒に考  
える地域づくり交流会in伊根」 長谷博司 2
- ・京都市でも「小学校のような全員制の中学校  
給食」の実現を 川俣勝義 4
- ・連載 (17) 今を読み解く一枚 池田 豊 6  
「明るい民主市政をすすめる会」から「市民本  
位の民主市政をすすめる会」へ
- ・新連載 わがまちいいこと 橋本まり子 7  
「美しい風景、自然。おいしい季節の食材。  
そしてあたたかいひと」
- ・中小業者直撃！ 消費税10% 鈴木宏介 8
- ・私の本棚 書籍紹介 中村 暁 10  
「現代社会はどこに向かうか  
ー高原の見晴らしを切り開くこと」
- ・続カメラ探訪 22 内野 憲 11
- ・交流のひろば／事務局通信 12

くらしと

自治

京都



**(社)京都自治体問題研究所**  
 TEL: 075-241-0781  
 FAX: 075-708-7042  
 Email: kyoto@kyoto-jichiken.jp  
 HP: <http://www.kyoto-jichiken.jp/>  
 発行人 大田直史

(「住民と自治」11月号付録)

## まち研交流会！

### 「岡田知弘先生と一緒に考える地域づくり交流会in伊根」

まいづる市民自治研究所（まい研） 長谷博司

#### ◆「まち研交流会」で地域づくりにおける重要性

9月14日(土)午後2時から、伊根町の山の中にある「筒川文化センター」で「まち研交流会」を開催しました。山々の緑にかこまれたセンターは、廃校になった筒川小学校を利用した宿泊施設です。周りには大きくりっぱな民家がありますが、そのほとんどは空き家だそうです。

今回の「まち研交流会」は、京都自治体問題研究所（京都研）とまいづる市民自治研究所（まい研）が呼びかけ人となり、2016年に丹後まち研が発足し、2018年には宇治自治体問題研究所が発足しましたので、「学習と交流をつうじて、それぞれのまち研の活性化をめざすこと」を目的に開催しました。

参加者は、舞鶴、丹後、宇治の各まち研のメンバー、京都研から中村知彦常務理事、地元伊根町からも参加があり、13人でした。自治体問題研究所理事長の岡田知弘先生（京都橘大学教授）にも泊まり込みでご参加いただいた交流会でしたので、なごやかで、ゆったりとした雰囲気にあふれました。参加者の自己紹介のあと、岡田先生から「地域づくりにおける『まちの研究所』の役割」についてお話がありました。

岡田先生は最初に、地域は自然条件、歴史的形成過程がそれぞれ異なるので、地域の現実、地域の個性をつかまなければ、有効な地域政策はすすめられないと指摘されました。それゆえに、地域を全国平均や市町村平均など、「平均」でとらえることの危険性を強調しながら、「地域経済の不均衡発展」の具体的事例を紹介していただきました。また、「地域づくりとは、人間の生活領域としての地域の意識的・自覚的な再構築」という



視点から、地域の個性を把握する「まち研」活動の必要性を語られました。全国を走り回っている岡田先生のお話から、各地のまち研の状況を具体的に学ぶとともに、まち研の地域づくりにおける重要性とやりがい、そして展望を改めて感じることができました。

まち研の活動交流では、宇治から財政分析活動の紹介。丹後からは発足からの活動紹介と、「地域では、若い人が帰ってこない、農地が荒れている等の現状のために将来不安がある。まち研で地域の実態や特徴をつかむための活動をやってみたい」と、これからの抱負が語られました。

夕食交流会は、伊根や舞鶴の地酒を味わいながら、みんなで夜遅くまでワイワイと語り合いました。まち研仲間とのおしゃべりは、互いのつながりも強くなるようで、楽しかったです。美味しいお酒も、美味しい食事も、人と人との出会いがあればこそ、でした。

#### ◆吉本秀樹・伊根町長が「伊根町のまちづくり」を語る

翌15日(日)は、朝9時から伊根町ほっと館のホールに38名が集い、講演会を開催しました。伊根町の雰囲気

マッチした、木造りのあたたかみのあるホールです。

伊根町長の吉本秀樹さんは「伊根町のまちづくり」をテーマに、伊根の歴史、朝ドラ「ええにょぼ」騒動、町議会議員になったキッカケ、合併問題への対応、まちづくりへの姿勢を、ウラ話もふくめて率直に話してくださいました。伊根町から参加された地元の方も、「吉本さんのあんな話は初めて聞いたわ」とびっくりされていました。

京都市内の大学を卒業後、「伊根に帰ろう！」と決意された吉本さんは、漁師として14年間を働いたあと、おばあさんが切り盛りしていた舟屋民宿「大平荘」を継ぎます。そして、41歳のときに町議会議員になったのは、大阪で保育士をされていた奥さんが「伊根の保育所はちょっとおかしい…」と語られたのがキッカケでした。「伊根には4つの保育所がありましたが、所長が条例どおりに配置されていない。」とのこと。そこで町役場に聞いてみると、「吉本さん。条例や例規集を鵜呑みにしたら、あきませんよ」という返事でした。吉本さんは「条例は伊根町の憲法なのに、おかしい」と思われたそうです。その当時の町政は、道路や港湾の整備には熱心だったのですが、福祉関係は「女、子どもの問題」と思われていました。吉本さんは「そんな伊根町を変えたい」と考え、議員になられたそうです。

それから数十年、伊根町の福祉政策は全国的にも高い水準になっています。高校生までの医療費完全無償化をはじめ、子どもたちの教材費や修学旅行費も無償です。保健師は2千人の町で6人という多さですが、吉本さんは「ほかの自治体と比べると6人は多いと言われますが、けっして多くない。保健師というのは地域での重要な役割があって、みんな忙しく働いてくれています」と語られました。

「伊根町は確かに小さな町ですが、私

は、数では考えていません。ないものねだりはせず、伊根町がもっているものを最大限に活かす。精神的にも、文化的にも豊かで、暮らしやすい魅力的な少数社会をめざします。そういう充実した地域づくりをすすめていって、いつか、『京都府北部に、伊根というまほろばがある』と言われるようになってほしいと夢見ています」と講演をしめくくられました。ちなみに「まほろば」とは、「素晴らしい場所」「暮らしやすい場所」という意味の古語ですが、吉本町長のお話から、伊根町が「まほろば」である理由が学べたような思いです。

#### ◆岡田知弘先生と「自治体戦略2040構想」を考える

岡田先生は、「『自治体戦略2040構想』と自治体、地域づくりを考える」と題して講演されました。講演のはじめに岡田先生は、合併問題で揺れていたときに伊根町で講演した思い出にふれたあと、「先ほどの吉本町長のお話のなかで発見したのは、1年違いですけど、吉本町長さんと私の誕生日が同じだったことです」と紹介されると、会場からクスクスと明るい笑い声が起きました。そんな和やかな雰囲気スタートした講演会ですが、「自治体戦略2040構想」が出てきた地方制度改革の歴史的な文脈、概要、「圏域行政」の具体的問題点など自治体をめぐる動向は、吉本町長がめざすまちづくりとは真逆の方向ですので、緊張感にあふれた講演会となりました。

参加された方々は、「町づくり、ふるさと、郷土に対する熱い思いは、保守・革新・政治信条に関係なく同じものがあることがわかった。吉本町長の政治信条に感動した。」「現在の自治体の課題がはっきりしてきた。岡田先生の話から2040構想のねらいと今後の地域づくりの課題とたたかひのポイントが分かった。」などと感想を述べられていました。

# 京都市でも「小学校のような全員制の中学校給食」の実現を

京都自治労連 川俣 勝義

## 京都市に「全員制の中学校給食」実施を求める10万人署名のスタート

9月28日(土)、京都教育文化センターで、京都市に対して「小学校のような全員制の中学校給食の実現を求める」10万人署名(京都市長・教育長あて要望署名)のスタート集会が開かれました。呼びかけたのは「小学校のような全員制の中学校給食をめざす連絡会」(小学校のような中学校給食をめざすALLネットワーク京都、より豊かな学校給食をめざす京都連絡会、新日本婦人の会京都府本部の3団体で構成)で、京都自治労連も事務局団体として参加しています。また、個人でも白坂有子さん(会社経営者)、杉本節子さん(料理研究家)、藤原辰史さん(京都大学准教授)、梶川憲さん(京都総評議長)など7人の方に呼びかけ人になっていただいています(9月28日現在)。

## 広がる貧困と格差

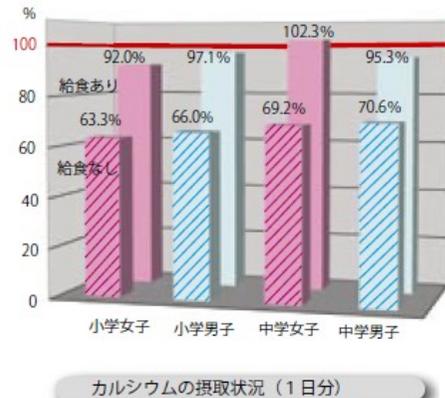
### 一学校給食でしかまともな食事栄養も取れない子どもたち

現在、日本の子どもの貧困率は13.9%(15年・厚労省「国民生活基礎調査」)、小中学生の就学援助率 15.23%(16年・文科省「就学援助実施状況等調査」)で、日本の子どもの約7人に1人、ひとり親家庭では実に2人に1人が貧困状態にあり、大きな社会問題となっています。

学校給食でしかまともな食事が取れない、夏休みの後はやせて来る、中学校給食がない学校では、お昼に食べるものがない、コンビニのおにぎりで済ます、人の弁当を食べてしまう、弁当箱に「ぼんち揚げ」を詰めてきていた!!、などの見過ごすことのできない実態が報告されています。

また、子どもたちの成長期に必要な栄養素を補うために学校給食が大きな役割を果たしていることが明らかになっており(図1)、特に大人の体をつくる大切な時期である中学校給食の有る無しが子

どもの成長と健康だけでなく、大人になってからの健康格差にまでつながっていることが報告されています。



〈図1〉 (独)日本スポーツ振興センター  
07年「児童生徒の食事状況調査」より  
一学校給食のない日はカルシウムの不足が目立っており、学校給食で出される牛乳・乳製品などが家庭で不足するカルシウムを補う重要な役割を果たしている一

## 京都市民は意外と知らない!?

### 中学校給食実施は全国でも京都府内でも当たり前

全国から大きく立ち後れていた京都府内の自治体でも住民要求に押される形で中学校給食実施の動きが広がり、現時点で全員制の中学校給食の実施もその計画・予定もないのは、京都市と亀岡市だけになっています。

「学校給食法」は、「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるよう努めなければならない(第4条)」と65年も前から中学校給食の実施を求めています。他府県から京都に転入して来られた方の多くは、京都市で未だに全員制の中学校給食が実施されていないことを知ると驚かれます。私自身も、高校まで関東で暮らしており、中学校に入学した48年前にはちゃんと中学校給食があったので、義務教育なら全国どこでもそれが当たり前だと思っていました。娘が中学生になった時、はじ



今を読み解く一枚（第17回） 池田 豊（京都自治体問題研究所副理事長・事務局長）  
京都戦後民主運動 歴史資料アーカイブ  
「明るい民主市政をすすめる会」から「市民本位の民主市政をすすめる会」へ

京都市長選挙において選挙母体となってきたのは、1985年6月13日に結成された「市民本位の民主市政をすすめる会」でした。8月10日告示、25日投票日だったので、告示59日前の結成でした。教文センターで開催された設立総会には、85団体、代表約160人が参加。

設立総会では①今川市長に対し「民主市政の会」との話し合いを求める大運動を展開すること、②行政区、学区ごとに「会」組織づくりをすること、③2週間後の28日に市長選挙勝利決起集会を開催することを決めました。25日には全行政区で地域の「会」が確立されました。

25日、今川正彦市長は6月臨時市会本会議で「戦後40年の日本の繁栄は、政権担当された自民党が大いに努力された。政権政党の自民党と十分な連携が必要」と自民党政治を賛美。共産党の若宮議員の質問に対し、「市政運営にあたっては常に市民本位でやってきた」、「市民本位には経済界も入る。財界本位か、市民本位かの二者択一の論理は理解しかね、うけつけるわけにはいかない」と答え、「一党一派に偏せず、憲法と地方自治法に基づく清潔、公正な市民本位の民主市政をすすめる」との自らの公約を踏みにじり、大きく変質したことを表明。

26日、「民主市政の会」の尾崎裕一氏（府市民団体幹事長）と河内一郎氏（京都市職労委員長）が京教組・市教組に対し「市長選挙候補者に湯浅晃氏を推したいので理解・支持をえたい」と申入れを行いました。

28日、湯浅晃氏と「民主市政の会」は選挙協定に調印。夜には京都会館に4300人が集まり決起集会を開きました。

蜷川民主府政を支えてきた「民主府政の会」とは異なり、「民主市政の会」は複雑な経過をたどってきました。

1967年に16年間続いた保守市政から富井清民主市政へと転換させた原動力は「全京



都市市民会議」でした。富井市長が病気で倒れたあと、1971年1月28日、共産党、社会党を中心に21の団体が結集して「明るい民主市政をすすめる会」を結成し、翌月2月21日の市長選挙に当時助役だった船橋求己氏を擁立して民主市政を引き継ぎました。

しかし、船橋市政2期目からは、自民党、公明党、民社党も推す名実ともにオール与党体制となり、市長選挙の投票率は1975年19.5%、1979年16.13%、今川正彦市長誕生の1981年27.1%という、超低投票率の市長選挙になりました。同じ時期に知事選挙をめぐっては歴史的な大激戦を繰り広げました。

この時期は京都財界が伝統産業派から京都経済同友会で徹底して京都論、文化・産業政策について研究してきた近代産業派が、京都商工会議所で多数派を占め、建都1200年事業を梃に京都大開発と蜷川府政転覆をはかってきた時期でした。

従来全く触れられていないのが、京都市政におけるオール与党体制により、選挙戦を仕切る「御池選対」が形成されていったことです。紙面もないので詳細は割愛しますが、同和行政もからみ京都市政の複雑さを生む背景ともなっています。

## 新連載 わがまちいいこと

「美しい風景、自然。おいしい季節の食材。そしてあたたかいひと」

日本共産党 京丹後市議会議員 橋本まり子

わたしが住んでいる京丹後市久美浜町の紹介をします。「久しく」「美しい」「浜の町」「く・み・は・ま」の言葉の響きそのものがステキ！だと他所から久美浜に来たものの第一印象です。京都府の北西に位置し、少し行けば兵庫県豊岡市。城崎温泉も目と鼻の先です。



久美浜湾

日本海と久美浜湾の自然と新鮮な果物や米、冬の松葉ガニや牡蠣、おいしい食材に恵まれた「食」の町でもあります。ずっと住んでいるとあって当たり前になって、ありがたみが薄れるのですが、季節季節の野菜、果物、穀物、魚がふんだんに食べられることのありがたみは何ものにもかえられません。自分ちの畑になくても、どこかしらから回ってきて旬の食材にありつける町なのです。

私自身久美浜に来て初めて食べたおいしいものがたくさんあります。コッペがに（卵をたくさん抱えた雌のかに）、もずく、なまこ、イガイ（牡蠣の養殖のさいに副産物としてとれるムール貝のような貝）、トビウオ（図鑑では見たことあったけど食べたことなかった）、このしろ（こはだ）、紫頭巾（黒豆のえだま

め）などなど枚挙にいとまがありません。私の大学時代の友人たちも絶賛で多くが久美浜の食材と風景に魅了され久美浜リピーターとなっています。

山陰海岸国立公園と山陰ジオパークに認定されています。

白砂青松のロングビーチは圧巻。花の寺「如意寺」、豪商稲葉本家など歴史を感じる建造物、温泉、ゴルフ、つり、サーフィン、カヤックなどのマリンスポーツ、最近できた「森の中の家・安野光雅館」など1年を通して楽しめる観光の町でもあります。

「ようきてくんなった」（よくお越しくださいました）「またきてくんにやあよ」（またいらしてください）「だんにやあ、だんにやあ」（大丈夫、大丈夫）久美浜の魅力で忘れてはいけないのが人の優しさ、あたたかさです。この温かい言葉にどれだけ癒やされ、励まされたことか。英語の発音記号で言う「ae」の発音が私には、なかなかうまくできませんが、安心感と親しみのある言葉、そしてその言葉を使う優しい人もこの町の大きな魅力です。

これから、かにシーズンです。ぜひ京丹後にそして久美浜の食と自然、人に触れて来てください。お待ちしております。

# 中小業者直撃！ 消費税10%

京都・中京民主商工会事務局長 鈴木宏介

10月1日に消費税が10%に引き上げられ、複数税率制度と増税対策としてのポイント還元が実施されました。中小業者にも大きな影響が及んでいます。中京民商の会員さんの状況を紹介します。

## 中小業者に負担を強いるポイント還元

政府が増税対策の目玉とするポイント還元ですが、事業者は手数料を負担させられる上に、売上が入金されるまで時間がかかり、資金繰りにも支障をきたしかねないものとなっています。

中京民商朱一支部のバイクショップの会員さんは、お盆明けに多少は駆け込み需要的なものがあった一方で、10月以降は目に見えてお客が減ったといいます。また、ポイント還元の対象店舗となる手続きをしたものの、増税から1週間たっても対象店舗であることを示す赤いステッカーシールが届かず、インターネットでも対象店舗として掲載されていない、と嘆いていました。「キャッシュレス決済だと手数料を4%弱とられてしまっていて痛いけど、バイクのように金額の大きなものはやるかやらないかで客足に確実に影響するので、やらないわけにはいかない」とのことです。

## 値札の書き換えも大変な作業

鉾町支部の酒屋の会員さんは、10%の酒類と8%の食品類を両方扱っているので、レジの入れ替えは絶対に必要だったとのこと。古いレジなのでそろそろ交換を……と考えていたので、補助金を利用して新しいレジにできたのはよかつ

たし、8%の商品と10%の商品の区分は新しいレジのおかげで混乱なくできているそうです。ただ、店頭に大量に並んでいる商品の値札が内税方式で、8%時の価格から10%時の価格に書き換える作業が膨大にあってぜんぜん追いついていない、とのこと。また「商品の価格に1割も上乘せするなんて大変。絶対に消費は冷え込む。『この際、健康のためにも酒は減らそうか』とでもなるんじゃないか」と心配しています。



酒屋

四条大宮でたこ焼き・鉄板焼きのお店を経営する乾支部の会員さん。蛸や小麦など食材の値上がりが続いてきたこともあって、消費税10%への引き上げを機に値段を上げたそうです。「うちは免税業者なので、消費税増税を機に値上げするのは便乗値上げといわれるかもしれないけど、食材がずっと値上がりし続けているから、値段を上げないとやっていけない」と話します。店内にいっぱい貼っている値札の書き換えは、やはり大変な作業だったそうです。

## 値上げするかどうかでの悩み

中小業者にとって大問題なのは、増税を機に商品価格を値上げできるかどうか。増税分に見合った値上げができなければ、自腹を切って納税をすることにもなりかねません。しかし、値上げでお客が減ることを心配して、なかなか値上げに踏み切るのは難しいという状況があります。



果物屋

円町で果物屋を経営する朱八支部の会員さん。この数年間、ずっとお客さんが少なくなっていました。特にこの10月に入ってからはお客さんがゼロの日も増えているとのこと。贈り物として購入する人も多くいるお店ですので、果物を箱や包装紙などで包むこととなります。果物自体は軽減税率対象なので8%で仕入れるものの、これらの包装材は軽減税率対象ではないので消費税10%で仕入れています。お客さんから箱代をもらうか果物自体を値上げするかで悩んだものの、結局変えられなかったそうです。「値上げなんてとてもできない。少しでも高くしたらみんなスーパーに行ってしまうと思う」と話します。「消費税がいよいよ上がるとなって閉店も考えた。現状維持ですらつらいけど、アカンようになるまでもう少し頑張りたい」と、体が元気なうちは商売を続けたいとの思いを

語っています。

同じく円町でとんかつ屋を営んでいる会員さん。食材などが値上がりが続けていたため、この夏、やむを得ず値上げをしたとのこと。消費税が10%になると、さすがにまた値上げするのはどうかと思ったものの、やはり一部の商品はどうしても値上げしなければ儲けがなくてやっていけないと思い、値上げに踏み切ったそうです。幸い今のところ客足が目に見えて減ったというような影響はないものの、増税の影響がこれからじわじわくるのではないかと心配しています。

## 免税業者の経営も圧迫

二条城近くで着物クリーニングの営業をしている銚町支部の会員さん。「かなり安い値段で仕事を請ける同業者も少なくないし、お客さんもかなりシビア」と、10月以降も値上げをしなかったそうです。免税業者だとはいうものの、石油代や水道代など経費は全て2%上がる中での値段据え置きは利益を圧迫することになりやっぱり苦しい、とのこと。

業者から回される仕事も多いので、4年後のインボイス（適格請求書）制度の本格実施が不安、とも語ります。

## 消費税は減税から廃止へ

共同通信社が10月5～6日に実施した世論調査では、消費税増税後の経済に「不安を感じる」という回答が70%、複数税率制度について「複雑だと思う」という回答が82%となっています。実施されてみて「やっぱりこの増税は間違っている！」との怒りの声が広がっています。消費税廃止をめざし当面せめて5%に戻せ！ の運動を大きく広げていきましょう。

「現代社会はどこに向かうか—高原の見晴らしを切り開くこと」

（岩波新書 見田宗介 著 2018年6月 760円＋税）

「現代社会は、人間の歴史の中の、巨大な曲がり角にある。」

本書、「はじめに」の書き出しの一行である。

著者は語る。「古代ギリシャではじめての『哲学』が生まれ、佛教や儒教が生まれ、キリスト教の基となる古代ユダヤ教のめざましい展開のあった『軸の時代』は、現在に至る二千数百年間の人間の精神の骨組みとなる考え方が形成された時期であり、人間の歴史の第一の巨大な曲がり角であった」。そして、近代に入り、「貨幣経済と都市の原理が、社会全体に浸透」したが、「軸の時代」とは、「『近代』に至る力線の起動する時代」であり、今日の〈情報化/消費化社会〉は、「近代」という「原理」が、完成された最後のかたちである。〈情報化/消費化社会〉は、〈グローバル化〉によって、「無限の発展の前提である環境と資源の両面において、地球という惑星の〈有限性〉と出会っている。

「人間はどこかで方向を転換しなければ」、「破滅が待っているだけである」。

これを著者は「第二の巨大な曲がり角」と呼ぶ。

そして、「わたしたちはこの曲がり角と、そのあとの時代の見晴らしを、どのように積極的に切り開くことができるだろうか」と、書く。

これが本書の問いかけである。

序章では、「生物学者がロジスティック曲線と呼ぶS字型の曲線」を示しながら、人類が他の生物種と同様、大増殖期以前期、大増殖期を経て、「大増殖以後期」に入り、安定均衡期に入っていると語る。もちろん、これはヒトという個体の数について語っており、人口増殖が減少している時期だということになるだろ

う。私たちの理論・実践、あるいは社会運動の展開を待たずして、既に人類は安定均衡期に入っているのだとすれば、著者が言うように、現在とは「『高度経済成長』をなお追求しつづける慣性の力線と、安定平衡期に軟着陸しようとする力線との、拮抗するダイナミズム」の時代なのである。

本書のサブタイトルである「高原の見晴らしを切り開くこと」とは、次のように語られる。

「近代に至る文明の成果の高みを保持したままで」「近代の後の見晴らしを切り開くこと」。

経済成長至上主義とでもいうべき思考形態に思想と生活を占拠されてはならない。人類は、「経済競争の強迫から解放され」、芸術を楽しみ、思想を語り、創造し、人間相互のふれあいや、自然との交感の「限りなく豊饒な感動」を追求し、展開し、享受し続ける。それが、現在と言う高原に立つ私たちが見晴らすべき、世界の姿である。

そのために私たちに何ができるか。著者は終章に「世界を変える2つの方法」を語るのだが、ぜひ手に取って読んでいただきたいと思う。

あまりに有名な著者による新書だが、それは社会学の本であり、「詩」でもあるように思っている。

本当のところ、私はこうした本が得意ではない。どうしても手に取って、買ったのかもよくわからないが、このようにお薦めしている。それはこの本の終章最後の一行の美しさに魅かされているだけなのかもしれない。

その一行も、ここには書かずにおきたい。



## 「軟式野球と駅伝の発祥地も京都」

先月号で、ラグビー「第一蹴の地」記念石碑と「バスケ男子チーム発祥の地」記念モニュメントを紹介しました。大家佳治会員さんから、「軟式野球発祥の地」の記念像もあるとの情報を頂きました。「駅伝の発祥の地」の記念石碑がある事も分かりました。「発祥の地」の続報です。



「軟式野球発祥の地」の記念像

バットとグローブをもった少年像です。旧成徳中学校（下京区高辻通り室町西入る：現在は京都文化協会）の玄関脇にあります。台座に、「軟式野球発祥の地」と刻印されています。京都文房具商業組合長であった鈴鹿栄が軟式ボールの試作品を開発し、1919年(大正8年)7月に、そのボールを用いて最初の野球大会を開催した場所が旧成徳中の校庭だったそうです。「宝ヶ池公園スポーツ広場」にも「夢みる季節」と名づけられた同じ少年像があります。

「記念像」の横に、「栄養給食の先駆けの地」と彫られた記念柱がありました。1936年(昭和11年)、成徳尋常小学校で、全国に先駆け、栄養給食と名付けられた学校給食が実施されたことを記念したものです。全員制の中学給食が実施されていない、京都府内でも遅れた今の

市政を転換せねばとの思いを強くしました。



「駅伝発祥の地」の記念石碑

私の大好きな駅伝の発祥地の記念石碑です。京都三条大橋東詰にあります。1917年(大正6年)4月27日から29日にかけて行われた日本最初の駅伝「東海道駅伝徒歩競争」のスタート地点であったため、2017年(平成29年)に、駅伝発祥100周年を記念して日本陸上競技連盟によって建てられました。ゴール地点の上野公園内・不忍池にも同じ石碑があるそうです。この駅伝は、約508kmの距離を23区間、3日間昼夜休むことなく続けられたそうで、台座部分には22箇所の中継点の名前が刻まれています。

ちなみに、京都三条大橋西詰には、十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」の二人の主人公、弥次さんと喜多さんの像があります。

駅伝の季節がやってきました。この京都でも、12月22日には全国高校駅伝、1月12日には全国都道府県対抗女子駅伝が開催されます。楽しみです。



## 「防災シンポジウム」

災害からいのちと暮らしを守るために  
-自己責任を超えて-

- ・対談 中島晃(弁護士)、岸野亮淳(恵光寺住職)
- ・シンポジウム 各分野から5名のシンポジスト  
コーディネーター 岡田 知弘 (橋大教授)

11/24(日) 14:00~

登録会館ホール(烏丸御池)

〈主催 防災シンポジウム実行委員会〉  
(問合先：京都自治労連 075-801-8189)

防災を巡る問題点と課題を様々な角度から  
浮き彫りにし、京都市政のあり方を考える防  
災シンポジウムが開催されます。

- ・事前申し込み不要。参加費無料。
- ・会場カンパの訴えあり。



生かそう憲法守ろう9条

11・2 憲法集会 in 京都

13:30開会

## 円山野外音楽堂

講演 小笠原伸児さん

弁護士 憲法9条京都の会世話人

## 80th ツキイチ土曜サロン

- ・開催日 11月16日(土)
- ・時刻 14:00~
- ・場所 京都自治体問題研究所
- ・報告 前田直人さん

### ＜今月の本＞

ちくま新書「未来の再建」

(井手英策、今野晴貴、藤田孝典 著、  
18.12、820円+税)

頑張っても報われず、誰もが弱者になりうる社会。それが今の日本だ。生活不安が私たちを直撃し、弱者がさらに弱い者を叩く。そんな状況にあって、突破口は一体どこにあるのか? 「くらしの場」、「はたらく場」、「保障の場」それぞれを再建し、自己責任社会から脱却すること。子育て、教育、医療、介護など、私たちが生きる上で必要不可欠な「ベーシック・サービス」を、すべての人に保障すること。来るべき時代への道筋を示す、希望の書である! (ちくま書房)。

### お気軽にご参加下さい

土曜サロンは、参加自由、事前申込不要。  
終了後、参加者による気軽なワンコイン懇親会を行っています。



手のひらに憲法プロジェクト  
URL <http://www.pocketkenpo.com>

### ＜ポケット憲法のお申込み＞

Mail [info@pocketkenpo.com](mailto:info@pocketkenpo.com)  
TEL 075-211-1161  
FAX 075-708-7042